

[学会] 第1081回 千葉医学会例会
整形外科例会

日時：平成15年12月13日(土) 8:55 ~

14日(日) 9:00 ~

場所：幕張メッセ国際会議場301

1. ulnar bowingをともなった橈骨頭脱臼の2例

樋渡 龍, 國吉一樹, 廣田延大
阿部圭宏 (千大)

症例は11歳と13歳の男児。前者は外傷歴不明の陳旧例、後者は新鮮例。Maximum Ulnar Bow (MUB) は7mmと4mm。治療は橈骨頭靭帯整復およびMUB最大点付近での尺骨矯正延長骨切り術を施行。結果、ともに良好な整復位が維持された。陳旧例では回外制限が残存したが、ADL障害はなかった。新鮮例は初診時の正確な診断が重要であり、陳旧例は術後の回内外制限の可能性について理解を得ておく必要がある。

2. 骨系統疾患に合併した環指MP関節ロッキングの1例

村上賢一, 阿部圭広, 廣田延大
國吉一樹, 南 昌平 (千大)

症例は28歳男性、主訴は環指MP関節伸展障害である。物を握った際、環指MP関節のロッキングが出現、その後もロッキングを繰り返したため、手術治療を行った。術後、若干のMP関節拘縮を認めるが、ロッキングの再発はない。192例のMP関節ロッキング中、環指は16例と稀で、また骨系統疾患合併例は、自験例が最初である。

ロッキングの発生機序として、中手骨頭の退行性変化と、動的因子の関与が考えられた。

3. Venous Thrombosisによる急性肘部管症候群の1例

齋藤雅彦, 廣田延大, 阿部圭宏
國吉一樹 (千大)

今回我々はVenous thrombosisにより急性発症した肘部管症候群を経験したので、若干の文献的考察を加え報告する。症例は67歳女性。誘因なく突然右肘内側痛、右手尺側シビレ、巧緻運動障害、鷲手変形が出現した。腫瘍摘出術を行い、症状は劇的に改善した。Ve-

nous thrombosisによる急性発症の肘部管症候群は極めて稀であり、早期に手術加療が必要と考えられる。

4. 外傷後の足根洞症候群に対して鏡視下デブリードマンを行った1例

竹下宗徳, 松木圭介, 佐粧孝久
高橋憲正, 和田佑一, 守屋秀繁
(千大)

症例は61歳男性である。左踵骨骨折後に生じてきた後足部不安定感を伴う左足部痛が主訴であった。足根洞症候群の診断にて、鏡視下に足根洞の郭清を行った。術後は歩行時痛、歩行能力が改善し、6か月と短期の経過観察期間であるが、本人の満足度は高い。本法の報告は少ないが、低侵襲であり足根洞症候群に対する有効な術式と考えられた。

5. 特発性側弯症を伴った異形成性脊椎すべり症の1例

池川直志, 高橋和久, 南 昌平
大鳥精司, 青木保親, 小谷俊明
赤澤 努, 男澤朝行 (千大)

側弯症を伴った異形成性脊椎すべり症の1例を経験したので報告する。

症例は13歳女性。両下肢痛と脊柱変形のため当科受診。L4すべり、L5前方形成不全、右胸椎側弯を認め、後方進入椎体間固定術を施行した。術後、両下肢痛は消失したが、側弯は残存した。本症例ではSciatic typeとIdiopathic typeの側弯が并存し、手術により体幹バランスは改善した。今後は、側弯の経過観察が必要と考えた。